

大学法人化Q&A

「法人化とはなに?」、「法人化によって大学はどのように変わるの?」といった皆さんの疑問にお答えします。

Q1 「地方独立行政法人化」ってなに?

地方公共団体が法律(地方独立行政法人法)に基づいて設立することのできる、地方公共団体と民間企業の中間的な性格を持った法人です。これまで以上に、大学運営を効率的・効果的に進めていくことがこの制度のねらいです。

Q2 法人化されると都留市の大学ではなくなってしまうの?

法人化されても、法人の設置団体は都留市であり、市立の大学であることに変わりありません。

Q3 なぜ、法人化するの?

急速な少子化の進行、大学全入学社会の到来など、今後大学間の競争の激化が予想されています。このような情勢の中、都留文科大学が生き残っていくために、大学を法人化することによって予算や組織上の制約を緩和し、学生を主人公とするより魅力的な大学づくりを進めるためです。

Q4 大学を法人化するのは、市の財政支出を減らすため?

市は、第5次長期総合計画のトップに、「教育首都つる」を掲げており、大学は都留市にとってかけがえのない存在であります。今後も市民の理解を得る中、大学の健全経営の維持に努めていきます。

Q5 法人化すると、授業料が大幅に上がるのでは?

法人化されても、市があらかじめ授業料の上限を決めておき、その範囲内で独立行政法人が授業料を定め、市の認可と市議会の議決を受ける仕組みになっています。つまり、大幅な値上げなどが起きないような歯止めがされています。

Q6 法人化すると、市民や地域にとって何が良くなるの?

大学の法人化は、市民の皆さんの期待にこたえる、より魅力的な大学づくりを目的としています。そのため、大学本来の役割である教育研究の充実と併せて、教育相談の充実や学生アシスタントティーチャー制度の拡大などを通じ、今まで以上に市民や地域社会に貢献する活動を展開していきます。

※ここでは、大学の法人化に伴う主な疑問点を掲載させていただきました。詳しくはお問い合わせください。

問合先 政策形成課 政策担当 E-mail: seisakukeisei@city.tsuru.lg.jp

文大名画座 〈名画の上映とトーク〉

教授陣がリレーでつなぐ不朽の名画シリーズ

都留文科大学では、昨年開催した日本の名画シリーズ、秋の洋画シリーズに続き今年も本学教員のお勧め映画を上映し、教員自身の思いを語る「文大名画座」を開催します。
入場は無料です。市民の皆様のご来場をお待ちしています。教員のトークを通じて総合芸術としての映画の魅力を十分に堪能してください。

第3弾不朽の名画シリーズ全4回

5月16日(水)

会場 2号館101教室

作品 山椒大夫(1954年・日本)

解説者 田中 実(国文学科教授)

5月30日(水)

会場 2号館101教室

作品 人間の壁(1959年・日本)

解説者 福田誠治(比較文化学科教授)

6月13日(水)

会場 2号館101教室

作品 若草物語(1949年・米国)

解説者 窪田憲子(英文文学科教授)

6月27日(水)

会場 2号館101教室

作品 おろしや国粋夢譚(1992年・日本)

解説者 楠元六男(国文学科教授)

※上映作品は、上映権の関係で変更することがあります。1週間前にホームページなどでご確認ください。

※当日のご参加も受け付けますが、資料準備のため事前に連絡をお願いいたします。

※上映時間は、午後6時30分～9時を予定、最終的には10時に完全終了します。

